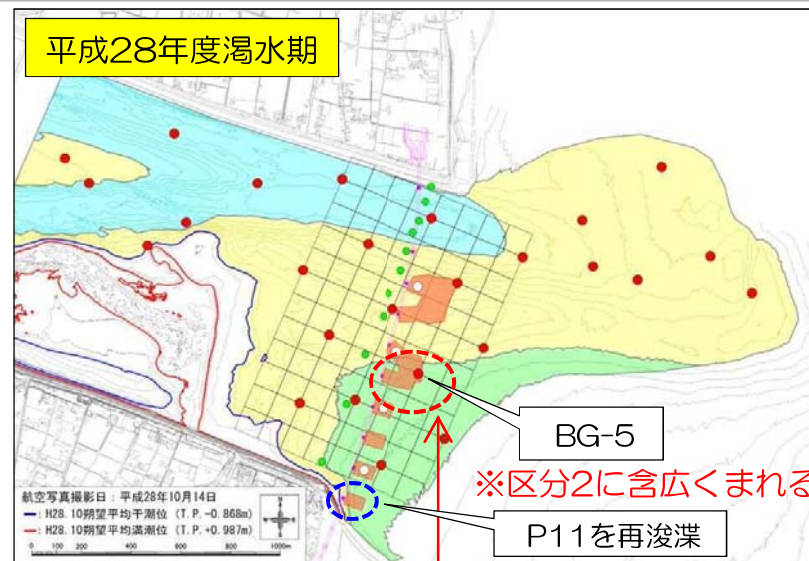
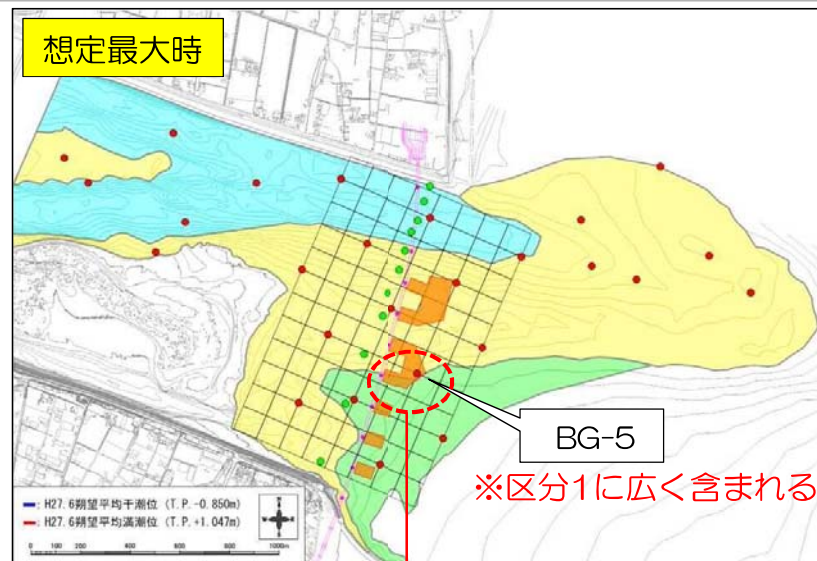


■ 浚渫の影響評価 ～区分1と区分2における影響値の増減について～



区分1では影響値が減少し、区分2では影響値が増加した原因として、以下の原因が考えられる。

- ① 想定最大時の浚渫面積より、**実際の浚渫範囲の面積が大きかったこと**。→ 区分2の影響値増加
- ② 今回のハビタット区分の検討において、区分1と区分2の境界が変化し、**浚渫範囲が区分1より区分2に大きく被る形となったことから、浚渫の影響値の増減は区分1と区分2でトレードオフされたこと**。



この浚渫範囲がハビタット区分1と区分2の境界に位置しており、より区分2に被るようになった

BG-5は区分1と区分2の境にあり、H28.6調査まで常に砂質の環境であったためハビタット区分1に含まれる地点であったが、**BG-5の含泥率が上がった**ことから、本検討では区分2に含まれることとなった。

